

# はなの輪

広島市植物公園植物友の会

2022年1月-3月 通巻第170号



園長のおすすめ 2021年2月23日号より

## アロエ‘青鱈(あおわに)’ *Aloe ferox* Mill.

南アフリカに自生する大型のアロエで、植物公園のサボテン温室でも迫力満点の種類です。オープン当初3株の「青鱈」がありました。順調に生育し、温室の屋根に届くほどになったため、1本は伐採、1本は2020年の年末に倒れてしまい、現在残っている1本が現在満開になっています [注：2021年2月23日の情報です]。

このアロエは、薬用のアロエ・エキスを採取する種類の一つで、日本には明治時代末期ごろにやってきたと言われています。

(園内位置：サボテン温室)

[写真・文 世羅 徹哉]

## 園長のおすすめ

植物公園ブログでは、園長のおすすめを定期連載中です。

見ごろの植物や最新のイベント情報も掲載しています。



<https://blog.hiroshima-bot.jp>



# あの花この花

## よくみると、どこか似てる！ ユーフォルビア

「ユーフォルビア」と言われて、どんな植物が頭に浮かびますか？

多肉？草花？樹木？どれも正解です。

なんと、全世界に約1,900種があり、1年草、多年草、低木、高木など、形態はさまざま。約7割が多年草で、南アフリカとマダガスカル原産のものには多肉植物が多いようです。

その中でも、最近人気のユーフォルビア(トウダイグサ属)の一部をご紹介します。

ピンクや白の華やかな苞がかわいらしいポインセチアの新品種。これもユーフォルビアです。“プリンセス”のような華やかな印象と、“ポインセチア”を組み合わせる「プリンセチア」などの商品名で販売されています。丈夫で苞の中心の花が大きくなりやすく、落ちにくいことが特徴です。写真は、2.5寸のポット苗12株を使用してリースにしたものです(写真1)。



写真1. 冬の室内を明るく彩るプリンセチア

サボテン温室で、冬の間も花を咲かせているのが、トゲナシハナキリン。

上の画像はサボテン温室のトゲナシハナキリン (*Euphorbia geroldii*)。下は花屋さんで見かけたハナキリンの園芸品種 (*Euphorbia milii* 園芸品種名 シャインキッス)。

どちらもとげが無い、もしくは少なく、丈夫、そして温度があれば花が咲き続けます。



写真2. トゲナシハナキリン



写真3. ハナキリン ‘シャインキッス’

ホワイトゴースト (*Euphorbia lactea*) の名前で流通しているのが、こちら(写真4)。サボテンを思わせる形の多肉植物で、白い肌が幽霊を思わせます。独特なフォルムが素敵。



さらに、夏の花壇によく使用される、白い苞が小花が咲いたように見える「ダイヤモンドフロスト」もユーフォルビア。

なんとも幅広いユーフォルビアの世界。どれも茎や葉の切り口から乳液を出し、多くは有毒なのでご注意ください。

写真4. ユーフォルビア  
‘ホワイトゴースト’

# 2022年1月～3月 展示会・イベント案内

1/29 (土)  
～ 2/14 (月)

## バレンタイン フェスティバル

今年はフェスティバル期間を2週に延長します。平日には、恋や愛に関する花言葉を紹介した「花みくじ」を先着プレゼント♡。2/11 (金・祝)～13 (日) は「99本のバラの花束」と撮影できます。

2/19 (土)  
～ 2/27 (日)

## 春の特別ラン展

今年のテーマは、「Let's go to キャッスルズ～植物公園で旅気分～」。国内外の城をモチーフに豪華なランで大温室を装飾します。会期中は毎日洋ランの販売と栽培相談を行います。

3/26  
4/2, 9

## さくらまつり (春の夜間開園)

3週に亘って、さくらが見ごろの土曜日は20時まで開園します。3/26 (土)～4/17 (日) のまつり期間中には日中に桜観賞会などを行います。

## 展示会のご案内

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、展示会・イベントを中止・延期する可能性があります。

|               |                       |            |               |
|---------------|-----------------------|------------|---------------|
| 新春小品盆栽展       | 共催：広島小品盆栽会            | 1/ 4～ 1/ 6 | 展示資料館         |
| 冬の鉢花展         |                       | 1/ 8～ 2/ 6 | 展示温室          |
| 植物写真コンテスト作品展  |                       | 1/15～ 1/25 | 展示資料館         |
| カカオとチョコの秘密展   |                       | 1/29～ 2/14 | 展示資料館         |
| おもと (万年青) 名品展 | 共催：日本おもと協会広島県支部       | 2/ 9～ 2/15 | 展示温室          |
| フラワーデザイン展     | 共催：日本フラワーデザイナー協会広島県支部 | 2/19～ 2/24 | 展示資料館         |
| 春の特別ラン展       | 協力：広島洋蘭倶楽部他           | 2/19～ 2/27 | 大温室及び<br>展示温室 |
| 「草木染の世界」展     | 共催：広島草木染の会            | 2/26～ 4/ 6 | 展示資料館         |
| ゼラニウム展        |                       | 3/ 5～ 4/17 | 展示温室          |

新春小品盆栽展



「草木染の世界」展





# Event Information 2022 1-3

植物園で開催されるイベントを紹介します

## 1 月

### 小品盆栽実演会

1月5日（水）午後1時半～2時半

### 野鳥観察のすすめ

1月10日（月・祝）午前10時半～11時半

## 2 月

### カカオニブ講演会（先着100名）

2月11日（金・祝）午後1時半～2時半

### おもと（万年青）実演会（先着10名）

2月12日（土）午後1時半～2時半

### フラワーデザイン実演会（先着100名）

2月20日（日）  
午前11時～正午、午後1時半～2時半

### 洋ラン実演会（先着20名）

2月20日（日）、23日（水・祝）、  
26日（土）、27日（日）  
午後1時半～2時半

## 3 月

### 「草木染の世界」展ギャラリートーク

3月6日（日）午前11時～

### 洋ラン栽培講習会

3月20日（日）午後1時半～2時半

### しいたけ栽培講習会・菌打ち体験会

（ホダ木が無くなり次第終了）

3月21日（月・祝）午前10時～午後3時

新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、イベントを中止・変更する可能性があります。来園前に最新の状況を植物公園ホームページや電話でご確認ください。

\*毎週土・日曜日・祝日 午後1時半～3時20分は、ガイドボランティアが園内を案内しています

\*毎月第2火曜日・第4土曜日 午前11時～は、園内で職員による植物うんちくガイドを実施しています

## コレクション紹介：変わり葉ゼラニウム品種群

変わり葉ゼラニウムは、ゼラニウムの中でも葉に特徴を持つグループで、明治末期から大正時代に輸入された欧米の品種をもとに、日本人の感性で独自に改良されたものです。今日では栽培する人が少なくなり、消失が危惧されています。現在、当園では変わり葉ゼラニウムを43品種保存・栽培しており、（公社）日本植物園協会のナショナルコレクションにも認定された日本随一のコレクションです。普段は一般公開していませんが、ゼラニウム展の会期中（3/5～4/17）は展示温室にてご覧いただけます。



展示の様子（ゼラニウム展）



真珠



千曲ノ輝



紫雲殿



ゼラニウム系園芸品種



瑞雲錦



松江錦



麒麟



## 春の花木「梅・桃・桜」 Spring Blossoms(Plum, Peach, Cherry)



ウメ '八重寒紅'



ハナモモ '関白'



サクラ 'サトウソメイ'

年明けから4月にかけて、ウメ・モモ・サクラと春の花木が花のリレーを繋いでいきます。日本庭園の冬至梅 [とうじばい] が年明け (早いと年内) にまず開花し、3月の桃、4月の桜と次々咲き進みます。園内には多くの品種を植栽しているので、日々変わる植物公園をお楽しみいただけます。

## 春の特別ラン展 Spring special orchid exhibition



コチョウラン



洋ラン品評会受賞花 (昨年度)



ハナカマキリ (協力: こんちゅう館)



名城と花の装飾 (イメージ)



鏡の間の装飾 (昨年度の展示)



フラワーデザイン展 (過去の展示)

今年の春の特別ラン展では、世界の名城をモチーフに大温室を豪華絢爛な洋ランで装飾し、一足早く花いっぱいの春を演出します。また、こんちゅう館とのコラボ企画で、ハナカマキリを展示する予定です (詳しくは1月完成予定のチラシをご覧ください)。展示資料館では会期前半は フラワーデザイン展 (2/19-24)、後半は 「草木染の世界」展 (2/26-) を同時開催します。



# 1月～3月に見ごろを迎える植物



シナミザクラ  
(展示資料館裏)



ヒヤシンス  
(花の進化園)



ホンコンシュスラン  
(大温室)



ドンベア ピンクボール  
(大温室)



ウコンラッパバナ  
(大温室)



ベルセミア・カペンシス  
(サボテン温室)



ヘレボラス・アトロルーベンス  
(ロックガーデン)



タンチョウソウ  
(ロックガーデン)



ミチノクフクジュソウ  
(里山の野草園)



ハナモモ '雛遊び'  
(日本庭園)



ギンヨウアカシア  
(カエデ園入口)



ユキツバキ '雪小国'  
(ツバキ園)

令和4年の今年の干支は寅（トラ）です。トラに因んだ植物はいろいろありますが、思い浮かんだものをいくつかご紹介します。里山の野草園のオニユリは英語でタイガーリリー。花びらの斑点をトラ柄に見立てています。また大温室では、世界最大のランとして知られる巨大なタイガーオーキッド（グランマトフィルム）を展示しています。今年は開花するでしょうか？ [写真・文：久保 晴盛]



# Plant Doctor Q&A

植物公園では、緑の相談窓口を設置しています。  
家庭園芸のお困りごと、何でもご相談ください。  
[☎082-922-3600 金曜を除く午後1時～4時]

Q. 冬に室内で育てているウツボカズラの元気がないのですが、病気でしょうか？

A. 熱帯に生育するウツボカズラの冬越しには、15°C程度の温度が必要です。そこで、冬越しのため、エアコンなどの効いた室内に取り込む必要があります。しかし、忘れがちなのが湿度のことです。冬にエアコンを効かせた部屋の湿度は驚くほど低くなります。毎日の様にスコールが降り、朝晩に霧がかかる熱帯雨林が原産の彼らにとっては砂漠のような環境です。彼らの越冬には温度だけでなく湿度を保つ工夫も必要です。

一番簡単な方法は、小さな温室を室内に置くことです。ビニールで区切られた内部であれば湿度を上げることは容易です。濡れたタオルを吊り下げておくだけでも十分な湿度を得られます。

温室の設置が難しいようであれば、大きめの透明ビニール袋を被せるという方法もあります。上部と下部には通気のための穴を開けて蒸れを防ぎます。水滴が植物体についたままになると病気の原因となるので、内部の結露に注意して栽培します。

また、食虫植物は他の植物がまばらな、開放的な空間に育つものが多いです。冬の室内は彼らにとっては暗く、日照が不足しがちです。できるだけ明るい場所で育て、それでも不足するようなら植物育成用のライトを設置するとよいでしょう。

[文 藤井 智展]

Q. 庭に植えたクマノミズキに明るいオレンジ色のスライムのようなものがついています。誰かのいたずらでしょうか？

A. 最近、クマノミズキの枝を切りませんでしたか？ ミズキの仲間は、早春、葉を展開する直前に根から水を吸い上げる力が強くなり、幹や枝に切り口や傷口があるとそこから樹液をしたたり落とします。この樹液にオレンジ色の色素を持った酵母がつき、増殖して鮮やかなゲル状の物体になることがあります。植物公園でも、屋外展示場の前のクマノミズキの大枝を切った年に、これが観察されました。

のちに、このオレンジ色の元になったのは、

「ファフィア酵母」という樹液酵母で、健康食品として扱われることもあると聞きました。夏、樹液に集まるカブトムシやクワガタを見つけるのに、樹液酵母の発酵臭を頼りにするという人もいます。このようなことがきっかけで、目には見えない微生物の存在を知ることができます。

[文 井上 尚子]

Q. 幹から直接花が咲いているように見えるソメイヨシノの木がありました。幹からも花が咲くのでしょうか？

A. 次にその様な木を見かけた場合、近くに寄って観察してみてください。よく見ると花は幹から直接咲いているのではなく、必ず短い枝から咲いているのが分かるはずです。このようなサクラは胴吹き桜と呼ばれています。

幹から直接発芽する事を胴吹きといい、胴吹きした芽は枝になり長く伸びる場合もありますが、数mm程度の短い枝になる場合もあります。その短枝に花芽がついて咲くことで、離れて見た時に直接幹から花が咲いているように見えたのだと思われます。

また、胴吹きは老木で多くみられる傾向があります。これは樹勢がなくなり根が水を吸い上げにくくなるため、少しでも根に近いところで葉を展開させて栄養を作ろうとするためと言われています。

[文 在岡 郁雄]



写真、太い幹から胴吹きしたソメイヨシノの老木

## 45輪の花が咲いた開園45周年のバオバブ

2017年10月に導入してから4年目となるオーストラリアバオバブですが、2021年は今までの開花数をはるかに上回る45輪もの花が咲きました。2021年は広島市植物公園の開園45周年なので、同じ数だけ開花したのは奇跡的だったように思います。

今年も昨年とほぼ変わらず5月初頭に新芽が出てきました。約1か月半後の6月下旬には観賞用通路から葉が展開しているのがよくわかるほどに生長しました。そして、7月下旬には小指の先ほどの小さなつぼみを確認できました。しかし、8月に入っても晴れた日が少なく気温も30℃に届かない日が長く続いたこともあってか、小さなつぼみの生長は前年までと比べて緩やかでした。それでもつぼみの数は8月中旬の時点で20個以上確認できました。

2021年の1輪目が開花したのは、8月28日の夜でした。その後、9月末まで1～2日置きに立て続けに開花しました。ひとつの枝に10輪以上の花が文字通り咲き乱れている状態を観察できた日が数日あり、その光景を見た時は非常に感動しました(写真1)。唯一残念だったのは、その光景を観察できたのが緊急事態宣言による臨時休園期間中で、入園者の方々にお見せすることができなかったことです。来年はさらに開花数が増えると思われまので、来夏の夜間開園を楽しみにお待ちしております。ただ、今年は9月中旬から夜温が25℃を下回る日が多かったためか、花弁やがくが開ききらずに開花が終わってしまった花が複数見られました(写真2)。

実を成らそうと、限られた量の花粉を用いて、作業が可能な場所に咲いている花3輪に人工授粉を試みました。人工授粉は開花翌朝に行いました。10月には小さな実がついているのが確認できましたが(写真3)、11月に確認した時には落ちていました。また来年、試行 錯誤して何とか結実を目指したいと思っています。

[写真・文 堀川 大輔]



写真1. 枝先に開花した多数の花  
(9月9日撮影)



写真2. 開花しきらなかった花  
(9月16日撮影)



写真3. 小さな実 (9月16日撮影)

 **広島市植物公園**

広島市佐伯区倉重三丁目495

☎ 082-922-3600 📠 FAX 082-923-6100

- 開園時間 午前9時～午後4時半(入園は4時まで) ■休園日 毎週金曜日
- 入園料 大人510円、高校生および65歳以上170円、中学生以下無料
- 駐車料 軽・普通自動車450円、中・大型車1,400円

